

# 会派構成が変更になりました

◎会派代表者 R4.4.1時点 / 欠員3名

令和会
◎石井 旭
荒川 一秀
長島 幸男
島田 清一郎
長津 智之
香取 憲一
戸田 見良

同土会
◎岩本 好夫
野村 武勝
小川 賢治
谷仲 和雄

小美玉市公明党
植木 弘子

おみたま共産党
福島 ヤヨヒ

真政会
◎村田 春樹
市村 文男
田村 昌男
大槻 良明

## 代表質問

※代表質問の掲載記事は議員本人が作成しています。

### 代表質問

会派を代表した議員が、市長の施政方針や予算編成方針に対して行う質問を代表質問といいます。通常、第1回定例会または市長改選後の最初の定例会で行われます。



## 公務員倫理を遵守する意識の高揚と健全な組織風土の醸成の取組みは

石井 旭

令和会

- Q 健全な組織風土の醸成は、『管理職の強いリーダーシップと責任感』のもと公平適正な人事とその評価が成されれば強い倫理観が醸成されると考えるが見解を伺う。
- A 市長 管理職研修により倫理観の涵養及び保持に努めるとともに、部下への指導、教育や適正な人事評価など管理職としての意識の高揚を図る。また、組織風土の醸成には公務員としての立場を改めて認識をし、法令に基づき適正に職務を遂行していく意識と、職務外でも法令、社会規範などに率先して遵守することが求められる。一方、職員の内倫意識だけに頼った再発防止の取組では、完全に不正を根絶することは難しいと考えられ、違法行為を行うとしても行えないようなシステムや制度を構築することが何よりも不可欠である。これらの取組として、提言書の物理的再発防止策及び技術的再発防止策に掲げている施錠保管やワイヤーロックなどの盗難防止策や生体認証機能の導入などに着手をして、倫理意識の高揚とシステム構築といういわゆるソフト面とハード面の両面から再発防止策に取り組み、健全な組織風土の醸成に努めていく。
- Q DX推進計画及び実施計画の策定においてデジタル技術の導入とワンセットで人件費の削減が出来るのか伺う。
- A 市長 積極的にデジタル技術を導入することで、業務の効率化による人件費の削減が図られ、また捻出された時間を活用し、窓口業務などの市民サービスの向上にもつながることが期待される。
- Q 『公共施設マネジメントの推進』スタートした建築系個別施設計画の市民への周知や対応は十分にされているか。
- A 市長 計画の基本方針で具体的な計画の実現に向けては市民と協働で推進するとしていることから施設の再編を実行に移す段階においては市民と十分に意見を交わした上で計画を推進していく。
- Q 市の学校教育としての統一した方向性が無く、旧美野里地区のみ統合でないため、スクールバスが普及せず、また小中一貫と統合とに分かれて計画性の甘さを感じているが見解を伺う。
- A 市長 市内全ての学校で小中一貫教育を実施することが統一した方向性。美野里地区で統廃合が行われる際はスクールバスの運行を考えていく。今後は状況の見える化、情報発信などさらなる工夫をしながら、市民の理解が得られるよう努めていく。

# ポストコロナの時代を見据え行財政改革を進めるとともに新たに取り組むべき課題は



## 同 士 会

## 谷 仲 和 雄

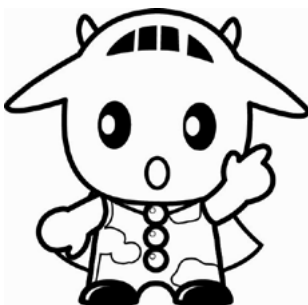
- Q** 第2次総合計画後期基本計画策定までのプロセスにおいて前期基本計画の実効性と実績の分析評価を踏まえ、ビルドアップの発想が必要とも考えるが、所見を求めます。
- A** 市長 第4次行財政改革大綱や各所管策定の個別計画などを踏まえ、事業の必要性、重要性、緊急性等を総合的に精査のうえ、計画案の策定を進めていく。感染症の脅威を見据えた新たな行政運営なども視野に入れ、本市の将来像の実現に向けて策定を進めていく。
- Q** 県総合計画に位置づけられたつくばエクスプレス県内延伸4方面案について、令和4年度中に延伸方面の一本化を図るという動きを踏まえ、つくばエクスプレス茨城空港延伸に向けた取組方針について所見を求めます。
- A** 市長 延伸には国の支援が必要不可欠であるため、国への要望活動をより多くの沿線自治体で行うことが重要。また、沿線自治体との議論を積極的に交わす場を設けることも必要。市は水戸市を中心とした県央地域連携中枢都市圏形成での広域的公共交通ネットワーク構築事業により、新たな公共交通に関する研究や要望活動を推進する事業があることから、水戸市へ協力を求めていく。茨城空港へのTX延伸ルートの優位性や必要性を広く周知をし、市民の期待感を高め、今後も議会期成同盟会と連携を図りながら取り組む。
- Q** DXの活用により行政の在り方を根本から見直すよい機会とも捉えるが、所見を求めます。
- A** 市長 令和4年度はDX検討支援業務として業務の可視化及び課題の抽出、解決策の提案を行う業務改善調査を実施する予定。その中でデジタル技術を活用した行政の在り方についてもしっかりと検討していく。
- Q** 対話と協調を基本理念に、市発展の礎を築いた島田様一市長のまちづくりに対する想いを伺う。
- A** 市長 合併後の4期16年、市政運営を担ってきた中で、その時代に沿った行政課題があり、また少子高齢化を迎える中で、将来を見据えた様々な施策を継続的かつ新たな発想を持って取組んできた。私の想いは、住んでみたい、住んでよかった、これからも住み続けたい、未来を担う子どもたち一人一人が誇れる小美玉市として、これからもダイヤモンドのように輝き続くことを心から願う。

## 一 般 質 問

## 一 般 質 問

9名

市政を質す！  
ただ



皆さんの生活にかかわる大切な内容について、市議会議員が市に対して行う質問です。

- |      |        |
|------|--------|
| P 15 | 戸田 見良  |
|      | 長島 幸男  |
| P 16 | 谷仲 和雄  |
|      | 福島 ヤヨヒ |
| P 17 | 島田 清一郎 |
|      | 石井 旭   |
| P 18 | 小川 賢治  |
|      | 植木 弘子  |
| P 19 | 長津 智之  |

※質問順

※一般質問の掲載記事は議員本人が作成しています。

国道6号千代田石岡バイパス開通後における玉里地区の地域振興は

つくば霞ヶ浦りんりんロードの利用促進や普及活動を県と連携していく



戸田 見良

Q 国道6号と小美玉市について  
 Q 国道6号千代田石岡バイパス開通後における玉里地区の地域振興や小美玉市としての取組について所見を伺う。

A 都市建設部長 バイパス開通後は、小美玉市玉里地域への流入人口が見込まれ、つくば霞ヶ浦りんりんロードの利用促進や普及活動を県と連携を図り推進することが有効である。石岡市や関係部局と連携を図り広域的な計画を策定できるように働きかけをしていきたい。



▲整備中の国道6号千代田石岡バイパス

人口減少と小美玉市について  
 Q 小美玉市企業誘致推進の見直しは。民間企業が小美玉市と組みたい、投資したいと思う条件は。

A 産業経済部長 ワンストップ窓口を活用し、優遇制度やインフラの充実をアピールし努める。投資したいと思う条件は、行政のきめ細やかな支援と道路等のインフラの充実をアピールしながら、企業誘致に努めていきたい。

意見

◆企業誘致に重要な事

企業に投資したいと思わせる風土をつくる

○気さくな行政・地元民間企業はスピード重視

○外部人材に任せない自前主義

○地元限定せず全国展開の視点

○集まるからこそ、さらに集まる

○若者の成長機会を創造（高校・専門・大学インターンを受け入れる）

その他の質問

待機児童ゼロの対策に重きが置かれていた子ども・子育て支援制度の見直しについて等ほか

公共施設の借地の見直しは

借地解消のため、積極的な返地及び買取等により借地料の縮減に取り組む



長島 幸男

Q 行財政改革について公共施設の借地の見直しは。具体的な取組内容と推進は。（現在の借地料は3千3百万円）

A 総務部長 「公共施設等総合管理計画」「建築物系個別施設計画」を策定し、基本方針に今後も安定した住民サービスを提供するためにも、借地の解消及び公用財産取得への転換や、跡地・遊休地を売却・賃借し、施設の更新費用に充当するなどにより、資産の長期的かつ安定的な運用を行うこととしている。第4次行財政改革の基本施策として借地の見直しを推進し、積極的な返還及び買取により借地料の縮減に取り組むこととし、毎年度、現状把握のための調査を行っている。借地料が年間100万円以上の施設は、やすらぎの里小川や小川文化センターアピオスなど10施設あり、これらの見直しは、現在所管課の検討段階であり、交渉まで至っていない。今後全庁的な取組みとして推進していく。

Q 補助金の見直しについてこれまでの取組みと成果は。

A 総務部長 平成20年度に「補助金等審議会」で、市単独補助金の一斉見直しを行い、その後は、一定の年数を経過したものについては廃止・休止の検討を所管課に指示し、状況を確認しているが、見直しの事務的フローが確立されておらず、本格的な見直しには至っていない。今後は、市単独補助金10%削減目標を設定しており、補助金等審議会を再度立ち上げ、実施計画期間内での補助金の適正化・見直しを図っていききたい。

要望 補助金交付規則・交付基準方針に基づき、単に廃止や削減ということを目的ではなく、必要性と効果を確認し、市民が納得する補助金制度のしっかりした運用を図ってほしい。

その他の質問  
 ふるさと応援寄附金制度の拡充について  
 ・現在の状況や推進策

療育に必要な児童発達支援センターの設置は

具体的機能を考慮のうえ整備することが必要

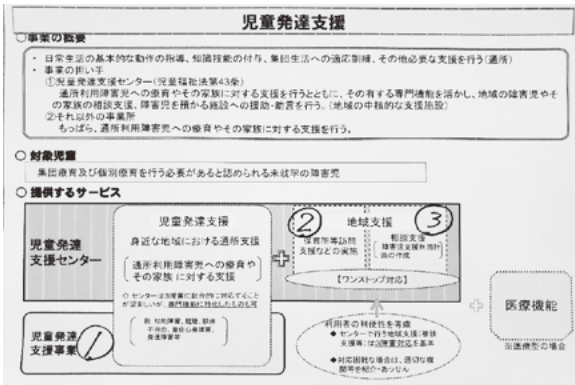


谷 仲 和 雄

**Q** 障がい児施設と事業の一元化により、通所系の児童発達支援や放課後等デイサービスなど民間事業者が運営する施設が機能している状況を踏まえ、民間の①「児童発達支援事業」の部分に地域支援の②「保育所等訪問支援」と③「相談支援」を加えることでワンストップ対応が可能となり、児童発達支援センターとしての機能が果たされるのではないかと。療育の推進に必要な不可欠な児童発達支援センターの設置・運営方法について、民間活力導入の可能性及び近隣自治体との広域連携等も視野に入れた調査・検討を進めるべきと考えるが、見解は。

**A 福祉部長** 児童発達支援事業を実施している施設に保育所等訪問支援と相談支援を加えることで児童発達支援センターとすることも一つの方法である。広域連携については、国の指針において圏

域での設置も差し支えないとのことであるので、広域での設置についても、民間事業者等の動向を注視し、必要に応じて近隣自治体と協議したい。児童発達支援センター設置にあたっては、これまでの各関係機関との連携を一層強化することや民間活力導入や広域連携などの整備手法等を含め、児童発達支援センターが担う具体的な機能などを考慮のうえ整備することが必要と考える。



▶「平成24年児童福祉法改正に伴う障がい児施設と事業の一元化」より

男女共同参画社会実現としての女性部長誕生を願う

男女の区別なく公正公平に評価し総合的に判断する



福 島 ヤヨヒ

**Q** 子どものワクチン接種はどのようなになっているか。コロナのため休校や学級閉鎖が行われているが、給食費はどうなっているか。学校の都合で食べられなければ、給食を無償にしたいが。

**A 保健衛生部長** 子ども

のワクチン接種は12歳以上が約80%、2回接種している。12歳未満には接種券を送付、予約受付後3月14日から接種開始している。給食費の無償化は今のところ考えていない。

**Q** 文化でまちづくり構想の今後の進め方をどのように図っていくのか。コロナ禍で中止になった地域も含めた様々な祭りや文化活動なども、支援して欲しい。

**A 文化スポーツ振興部長** これからもアーティストを学校や地域に送り出す事業を続けていく。地域で守られてきた文化活動も次世代に継承していく支援を行う。

**Q** 小川総合支所にエレベーター設置を願う。他のエレベーターのある施設をもっと活用できるように。

**A 市民生活部長** 小川庁舎で2階に用事のある方で障がいなどある方への対応は職員が1階で行っている。エレベーター設置は今後検討していく。玉里総合支所などの活用を柔軟に対応している状況。

**Q** 男女共同参画社会の実現のための施策の進捗状況として、消防署の女性職員採用のためのインフラ整備など、対応は検討されているか。市でも女性の目線で仕事を推進するため、女性の部長の誕生を切に願っているが答弁を。

**A 総務部長** 消防職員の女性採用には子育て中でも働ける環境づくり、ハード面やソフト面の整備を考えていきたい。女性の管理職登用には男女の区別なく公正公平に評価し、部下の管理・指導力協調力など総合的に考慮判断している。人材のスキルアップを図りながらバランスなど適切に図っていく。

8

羽鳥小学校プール撤去 と そらら拡張計画について

校地の有効活用、持続可能な地域再生を目指す



島田 清一郎

**Q** 羽鳥小学校のプールは使用されていないので撤去して敷地の有効利用を図るべきでは。

**A** 教育部長 令和元年度までは使用していた。令和4年度からは、美野里中学校を除く市内の小学校においては、小川または玉里海洋センターでの水泳学習を実施していく。羽鳥小学校のプールは、速やかに解体撤去し、校地の有効活用を図る。

**Q** そららの管理運営について

**①** 設置目的である地域再生拠点とはどのようなものを意味するか。

**A** 産業経済部長 市内外から訪れる方々に、本市の価値を発信し、小美玉市ならではのおもてなしを行い、交流人口の拡大による地域経済の活性化を目指した拠点施設。

**②** 小美玉市まちづくり構想基本計画の中のそらら拡張構想の基本計画と地域再生拠点施設の整合性について伺う。

**A** 産業経済部長 そらら拡張構想の基本計画は、地域の農と食から持続可能な地域再生を目指すとしており、「そらら」の魅力向上に向けた機能強化の検討をしているので、地域再生拠点施設の考え方と、整合性が図られたものである。

**③** そらら拡張構想による設備投資の財源の確保と事業効果の見込みについて伺う。

**A** 産業経済部長 防衛省の補助事業であるまちづくり支援事業の活用を見込んでいる。効果の見込みは、基本計画策定の中で実施したアンケートで、整備後に利用頻度が確実に増えるとの回答が83・8%であり、まちづくり構想の4つの構想が実現することにより、交流人口の拡大と地域の活性化に大きな効果が発現できる。

**要望** この計画が将来の小美玉市の負の遺産とならないよう十分な検討を。

中央線の延伸を提案する『メロンロード』更には『県道・大和田羽生線』まで！

県道紅葉石岡線までの区間の早期供用開始の時期を見極めながら、検討していく



石井 旭

**Q** 中央線の『紅葉石岡線』への開通が見えてきて防衛補助金を活用し、『メロンロード』更には、『県道・大和田羽生線』まで延伸を提案する。羽鳥駅まで一直線となる。見解を伺う。

**A** 都市建設部長 小美玉中

央線（市道小10911号線）は、世楽地内の農免道路から県道紅葉石岡線までの2.5kmの幹線道路として整備を進めている。今後は、佐オコミュニティーセンター付近から県道紅葉石岡線の区間で、令和4年度から防衛省の民生安定施設整備事業費補助金を活用し、用地買収を進めていく。用地買収の進んだ区間から順次工実施する予定。小美玉中央線の県道大和田羽生線までの延伸は、本路線が常磐線の羽鳥駅に直結する道路であり、その延伸により利便性の向上や公共交通ネットワークの構築につながる有効な道路になると考えられる。そのため、現在整備を進めている

**Q** 『空港アクセス道路の開通』に伴い市道路線の拡充として、『柴高街道』の整備を提案する。交通量も多く中央線との連携も図られ、側溝やセンターラインの整備を提案する。見解を伺う。

**A** 都市建設部長 道路の

現状は、幅員は概ね6m前後で、センターラインや路面排水のための側溝は部分的に設置されている。その中で交通量が多く、幅員が4mの狭い区間が多い柴高地内の県道上吉影岩間線の交差点から西郷地の旧国道6号までの約1.7kmについて道路改良事業を進めている。長期的には茨城空港アクセス道路や国道6号小美玉道路などの幹線道路網の計画・整備により、将来交通量の変化に対応できる道路規格の検討や優先度などについて検討を行い、短期的にはセンターラインや路面の排水対策などの局所的な対策に努めていく。

費用などを検討していく。

費用などを検討していく。

小美玉市の将来人口の推計は

将来人口の目標値は 2040 年で 46,000 人



小川 賢治

Q 小美玉市の人口状況を伺う。  
①総人口の推移は。

A 企画財政部長 2020年10月1日現在48,870人で2040年で46,000人と推計される。

②地区別人口の推移は。

A 企画財政部長 2015年と2020年の国勢調査の推移を見ると小川地区13,451人減少でマイナス7.5%、美野里地区で8,499人減少でマイナス3.3%、玉里地区は4,522人減少でマイナス5.5%であった。

③自然増減と社会増減は。

A 企画財政部長 出生数の減少が大きく、晩婚化や未婚率の上昇なども大きく影響している。また、転出が転入を上回っており、市全体の転出を抑制し、社会稼働率の改善を図ることが必要である。

④人口減少が市税額に与える影響について伺う。

A 企画財政部長 市税収入のうち個人市民税が占める割合は34%。老年人口の増加による社会保障費の拡大等により支出増加が見込まれるなど、市政運営に大きな影響が出ると想定される。

Q 市のめざす健康づくりについて  
①健康寿命の重点的な取り組みを伺う。

A 保健衛生部長 本市において医療費が増大している糖尿病、高血圧症、脂質異常症を重点課題とし、健康づくり事業及び介護予防事業に取り組んでいる。

②からだの健康づくりについて本市取り組みの具体策は。

A 保健衛生部長 令和4年度から新たな取組みとして、75歳以上を対象とした高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業として、健康状態が確認できない方の実態把握に取り組んでいく。  
③健康づくりの環境整備について、市民・地域主体の健康づくり推進の取り組みを伺う。

A 保健衛生部長 健康づくりの一環として、食生活改善や運動の普及など、老人クラブや地区サロンの参加者に普及啓発活動が行われている。



▲公民館での介護予防講座

带状疱疹ワクチン接種の積極的促進を求む

正しい情報を発信、啓発活動に取り組んでいく



植木 弘子

Q コロナウイルス濃厚接触者を含む自宅療養者への支援対策について

A 保健衛生部長 一定の条件のもとに食料品及び日用品等の支援を行っている。生活支援については市のホームページで案内している。

Q 5歳から11歳へのワクチン接種について

A 保健衛生部長 小児に接種する場合、小児科の医師、看護師の確保が非常に困難な状況にあることから、県主導により広域的な接種会場の設置と県内定期予防接種広域事業と同等の取扱いを出来ること等の要望を実施。その後、医師確保ができ、4月から市の集団接種を進められることになった。

Q 高齢化の進展、さらにコロナ禍で以前より外出を控える生活が続いていることから、带状疱疹が近年増加傾向にある。しかしワクチンに対する認知度が低い。市民の健康

を守り、医療費軽減につながるため、带状疱疹ワクチンの予防接種を積極的に促進すべき。また、費用の助成を検討すべき。

A 保健衛生部長 まずは带状疱疹及びワクチン接種に関する正しい情報を発信し、効果や副反応などについて、十分理解した上でワクチン接種を希望者がきちんと選択出来るよう啓発活動に取り組んでいく。助成については、国の定期化に向けた動きがあることを踏まえ、国県及び近隣自治体の動向を注視し、調査研究していく。

要望 医療費、介護費負担の軽減につながる問題のため、市独自の事業として助成に取り組んでほしい。

その他の質問

- 交通弱者への支援
- パソコン、スマートデバイスに関する支援



5歳から11歳までの小児向けワクチン接種の開始時期は

市内集団接種は4月中旬頃から開始予定

長津 智之

**A 保健衛生部長 副反応の相談窓口は、茨城県新型コロナウイルスワクチンコールセンター（副反応相談窓口）。身体障害者に対しては、症状を理解しているかかりつけ医での接種**

**Q 接種を受けたあと副反応が起きた場合の相談窓口はどこになるのか、また身体障害者に対する予約体制や相談窓口がどこになるのか伺う。**

**A 保健衛生部長 対象者数は約2,650人。使用ワクチンは小児用ファイザー社製。接種回数は2回。接種会場は県の大規模接種会場、市内個別接種は小美玉市医療センター、小川南病院、けやきクリニック。市内集団接種は、4月から医師確保が出来たので、現在進めている。**

**Q 本市における5歳から11歳までの接種対象者は何名か。また、使用ワクチン名、接種回数および接種会場について伺う。**



を優先と考える。そして、県の大規模接種会場、市内で小児科標ぼうの3医療機関での接種を案内していく。現在市内での集団接種体制構築のために医師の確保に努めている。接種体制の整備が出来次第、市のホームページ、広報紙、行政メール等で発信していく。小児ワクチン接種に対する問い合わせは、市のコールセンター及び健康増進課で対応している、副反応の相談窓口は茨城県新型コロナウイルスワクチンコールセンター（副反応相談窓口）で、市のホームページへ相談窓口を掲載している。

市民の声

- ・TXの茨城空港延伸実現に向けて、これからも要望活動頑張ってください。（高崎・Sさん）
- ・このコロナの中、成人を迎えられたこと大変嬉しく思います。わが家にも孫が長野県から戻り式に出席でき、家族一同大変嬉しい思い出になりました。（倉数・Nさん）
- ・県内においても、コロナウイルスの感染が再拡大するなかであります。学校での教育・経済活動などコロナウイルスと共存しながら生活ができるよう、今後ともお力添えいただきたいです。（中台・Aさん）
- ・たくさんの茨城空港のことを書いてもらいたい。年に何回かスカイマークにお世話になってます。子どもが兵庫県にいるので。（田木谷・Eさん）
- ・第8代新議長ファイト（議会）早くコロナから穏やかな生活に戻ることを祈願する限りです。（高崎・Sさん）

たくさんのご意見、ご感想ありがとうございました。

プレゼントクイズ

第63回 プレゼントクイズ

今回の議会だより第65号の中から、問題を3つ出題します。正解した方の中から抽選で、10名の方にキャトル・セゾンと空のえき そ・ら・ら レストラン（ちゃあしゅう貴族）で利用できる食事券（2,000円分）をプレゼントします。ぜひご応募ください！

- 問① 令和4年度一般会計当初予算000億円を可決
- 問② 新年度予算は0000委員会で審査を実施
- 問③ 次回6月定例会の開会予定日は6月0日

◇応募方法 はがき・FAXなどで、住所、氏名、クイズの答えを明記してご応募ください。また、議会や本紙に対するご意見やご感想をあわせてお寄せください。

◇締め切り 令和4年5月31日（火）まで  
\*当日消印有効

◇応募先 〒319-0192 小美玉市堅倉 835

小美玉市役所議会事務局宛 FAX：0299-48-1199

◇その他 応募に関する個人情報は、プレゼントの送付以外には利用しません。当選者発表は食事券の発送をもってお知らせします。



応募用 QR

◆第62回クイズの正解：問① 22 問② 7 問③ 9